

令和6(2024)年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立御幣島小学校

令和7年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

御幣島小学校の子どもたちは、素直で明るく学校全体の雰囲気も比較的落ち着いている。しかし、昨年度の大阪市学力経年調査（3～6年）では、大阪市の平均正答率をすべての教科で上回っているのは、4学年中1学年だけであった。このことからも、国語科に限らずどの教科でも「読み取る力」をつけていく必要がある。

また、昨年度に引き続き、いじめに対する一人一人の認識を深め共通理解を図ると共に、学級担任のみならずより多くの目を配ることで、早期発見と早期対応を目指し、今後も研修と啓発活動を続けていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和 7 年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合 100%をめざす。

【今年度 83.0%】【昨年度 82.9%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和 7 年度末の校内調査における「学校・家庭で学習する習慣が身についている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える保護者の割合を 90%以上にする。

【今年度 83.0%】【昨年度 90.0%】

○令和 7 年度小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 66%以上にする。

【今年度 72.1%】【昨年度 75.4%】

【学びを支える教育環境の充実】

○令和 7 年度末の校内調査の「日々の学校生活の中で、学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 100%にする。

【今年度 86.5%】【昨年度 86.2%】

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。

【今年度 83.0%】【昨年度 82.9%】

○本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を大阪市平均より上回る。

【今年度 75.3%】【R5 年度大阪市平均 72.6%】【R4 年度大阪市平均 71.3%】

学校園の年度目標

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より上回る。

【今年度 89.6%】【昨年度 84.6%】

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より上回る。

【今年度 81.6%】【昨年度 77.6%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を昨年度より上回る。

【今年度 44.0%】【昨年度 52.7%】

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。

【今年度：国 4 年 1.02・5 年 1.00・6 年 1.06、算 4 年 1.02・5 年 0.98・6 年 1.00】

【昨年度：国 4 年 1.03・5 年 0.97・6 年 0.98、算 4 年 1.01・5 年 0.99・6 年 1.01】

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を昨年度より上回る。

【今年度 72.1%】【昨年度 75.4%】

学校園の年度目標

○校内調査における「学級の友達と話し合う活動を通じて、分かったことや気づいたことがありますか」に対して、肯定的な「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答する児童の割合を 70%以上にする。

【今年度 89.9%】【昨年度とは質問内容を変更】

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕

【今年度 27.3%】【今年度からの質問内容】

○毎週 1 日以上、ゆとりの日を設定する。夏季・冬季休業期間中の学校閉序日を 3 日以上設定する。

【今年度 3 日以上設定】【昨年度 3 日以上設定】

○年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的に答える教職員の割合を昨年度より上回る。

【今年度 90.5%】【昨年度 85.6%】

学校園の年度目標

○学習者用端末で、児童が「心の天気」「オンライン授業」「相談機能」「デジタルドリル」等の活用を併せて一日 1 回以上行うようにする。

【今年度 1 回以上実施】【昨年度 1 回以上実施】

○教職員の資質向上をめざし、授業研究を含む各種校内研修を月平均 2 回以上行う。

【今年度月平均 2 回以上行実施】【昨年度月平均 2 回以上行実施】

○教室の環境整備の目標として、児童の身長にあった使いやすい高さになるよう、年 2 回の調査を行い、適切な児童机・椅子を配備する。

【今年度年 2 回実施】【昨年度年 2 回実施】

3 本年度の自己評価結果の総括

「豊かな心を持ち、未来を切り拓く子どもを育てる」という学校教育目標のもと、本年度も落ち着いた状況の中で、授業・学校行事・人権教育などの様々な活動に取り組むことができた。各学年、工夫を凝らしながら教育活動を進めることで、一人一人の児童が生き生きと活躍する場面が随所に見られた。

【安全・安心な教育の推進】

みんな遊びやいいところみつけなどの各学年の取組、たてわり班活動など、あらゆる教育活動を通して、一人一人を大切にした人権教育を進めてきた。月に1回、生活指導部会（いじめ対策会議）を行う中で、情報の共有や対応・対策の共通理解の機会を重ねた。小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%にするという目標はあと少しで達成できなかつたが、一昨年度80.2%、昨年度82.9%、今年度83.0%と、少しづつ取組の成果がみられる。

本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合は今年度75.3%で、昨年度の大坂市平均を上回った。しかし、ラインなどのSNSなどの使い方については課題もあり、引き続き、家庭とも連携しながら啓発していく必要がある。

今年度は自己肯定感・自尊感情の育成にも重点をおき、教育活動に取り組んだ。小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は89.6%で、昨年度を上回った。また、小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対しても、肯定的に回答する児童の割合は81.6%で昨年度より上回った。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

今年度は、「自分の考えをもち、主体的に学ぶ子どもの育成～読み取る力を身につけ言語活動に活かす～」とし、研究に取り組んだ。特に、「読み取る力」に重点をおいたことで、小学校学力経年調査の結果からも、一定の成果が見られた。さらに、専科指導を推進し、より質の高い教科指導の充実を目指した。小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大坂市比を、同一母集団において経年的に比較し、国語科ではどの学年も目標を上回った。算数科では3学年中1学年が上回った。

校内調査における「学級の友達と話し合う活動を通じて、分かったことや気づいたことがありますか」に対して、肯定的な「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答する児童の割合は89.9%で、昨年度を大きく上回った。ただ、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は44.0%で昨年度を下回った。

小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は72.1%で、昨年度をやや下回った。今年度は、なわとび週間だけでなく、なわとび検定週間などの新しい試みにも取り組んでおり、来年度に向けて、さらに体力の向上に努めていきたい。

【学びを支える教育環境の充実】

学習者用端末で、児童が「心の天気」「オンライン授業」「相談機能」「デジタルドリル」等の活用を併せて一日1回以上行うことができた。今年度からの質問内容である授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数は年間授業日の27.3%で、目標を下回ってはいるが、ほとんどの授業日で8割近くの児童が学習者用端末を活用している。調べ学習やプレゼンテーション、デジタルドリルなどの一人一台端末の活用や授業でのデジタル教科書の活用は、年々進んでいる。さらに、タブレットの持ち帰りや休み時間の使用方法など、学校全体でのルールの共通理解を進めていく。

教職員の資質向上をめざし、授業研究を含む各種校内研修は月平均2回以上行った。また、年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的に答える教職員の割合は90.5%で、昨年度を上回った。本年度の結果を踏まえ、次年度に向けて改善していくところや工夫していくところをさらに模索していきたい。

大阪市立御幣島小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 全市共通目標（小・中学校） ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。 【今年度 83.0%】【昨年度 82.9%】 ○本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、最も肯定的な回答する児童の割合を大阪市平均より上回る。 【今年度 75.3%】【R5 年度大阪市平均 72.6%】【R4 年度大阪市平均 71.3%】	B
学校園の年度目標 ○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より上回る。 【今年度 89.6%】【昨年度 84.6%】 ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77.7%以上にする。 【今年度 81.6%】【昨年度 77.6%】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 ○いじめ〇や不登校〇をめざして、年間を通じて、みんな遊びなどの学級活動を進めることにより、仲間づくりを進める。 ○話し合いや教え合いなどの協同的な学習活動を進めることにより、支え合える集団づくりを進める。	B
指標 ◇校内調査における「困っている子がいたら、話を聞いたり助けたりする。」の項目について、「する」「どちらかといえばする」と答える児童の割合を 85%以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 ○携帯電話の正しい使い方について、理解する場や研修会を行う。	B
指標 ◇携帯電話の正しい使い方を、理解する場や機会を複数回設ける。	B
取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】 ○教育活動全体を通じ、発達段階に応じた系統的な人権教育の実践により、児童が様々な人権課題に対する正しい理解と認識を深め、日常生活の中で自他の生命と尊厳を互いに尊重しあう態度を育む。また、体験的な活動を積極的に取り入れ、心豊かに学ぶ児童を育成する。	B
指標 ◇人権教育年間指導計画を作成し、学期に1つ重点教材を設定し、学年ごとに取り組んだ実践の交流を行う。 ◇ゲストティーチャーを招いた体験的な人権教育に各学年1回以上取り組む。 ◇各学年で、体験的な学習を積極的に取り入れ、豊かな心を育成する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- 各学年、みんな遊び・たてわり班活動・いいとこみつけなどを通して、いじめ0・不登校0を目指して取り組むことができている。
- 校内調査における「困っている子がいたら、話を聞いたり助けたりする。」の項目について、「する」「どちらかといえばする」と答える児童の割合を85%以上にする指標に関しては91%を超えており、概ね目標は達成できている。

取組内容②

- 各学年、視聴覚教材やオンライン授業などで、わかりやすく児童に説明することができた。
- 各学年で発達段階に応じて道徳や総合の授業の中でも取り入れることができた。

取組内容③

- 人権教育年間指導計画に基づいて、各学年人権教育に取り組むことができた。
- ゲストティーチャーを招いた体験的な人権教育に取り組むことができた。

次年度への改善点

取組内容①

- 不登校傾向の児童に対して共通理解を図っていく。
- スクールカウンセラーや諸機関との連携を図る。
- 心の天気を、毎日入れて観察することの取り組みの継続。
- みんな遊び・たてわり班活動・いいとこみつけの継続。

取組内容②

- 学校アンケートによると1年生は60%以上の児童が携帯を所持していて、高学年では80%を超えており、所有者のうち15%は、家庭でのルールを決めずに使用している。1年生保護者への啓発が必要。また、SNSの指導だけでなく、QRコード決済上のトラブルを想定した指導も行う必要がある。

取組内容③

- 今後も、ゲストティーチャーを招き継続して体験的な活動を行っていく。

大阪市立御幣島小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標（小・中学校） ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を昨年度より上回る。【今年度 44.0%】【昨年度 52.7%】 ○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。 【今年度：国4年 1.02・5年 1.00・6年 1.06、算4年 1.02・5年 0.98・6年 1.00】 【昨年度：国4年 0.98・5年 0.97・6年 1.02、算4年 1.00・5年 0.99・6年 1.01】	B
○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を昨年度より上回る。 【今年度 72.1%】【昨年度 75.4%】	
学校園の年度目標 ○校内調査における「学級の友達と話し合う活動を通じて、分かったことや気づいたことがありますか」に対して、肯定的な「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答する児童の割合を 70%以上にする。 【今年度 89.9%】	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4、誰一人残さない学力の向上】 ○新学習指導要領に基づき、各教科の年間指導計画を立て、教材研究を進めていく。 ○基礎基本の習得に重点を置きつつ、児童間での意見の交流の場を多く設定し、多様な班活動やペア活動等での話し合う活動を積極的に取り入れた授業を工夫して実施する。	A
指標 ◇校内調査における「学級の友達と話し合う活動を通じて、分かったことや気づいたことがありますか」に対して、肯定的な「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答する児童の割合を 70%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向4、誰一人残さない学力の向上】 ○紙媒体のドリルと並行して、デジタルドリルの活用も進め、自ら進んで学習課題に取り組む児童を育てる。	B
指標 ◇年度末の校内調査における「学校・家庭で自分から進んで学習している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と肯定的に答える児童の割合を 80%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】 ○年間指導計画をもとに、運動する楽しさや喜びを味わうことができる体育科の授業作りを目指す。	
指標 ◇小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きですか」に対して、肯定的な「好き（どちらかといえば、好き）」と回答する児童の割合を 75%以上にする。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- 指導計画にそって教材研究を進めることができた。専科の授業が多くあったため、各教科の教材研究も進んで行われていた。
- 校内アンケートの結果では、肯定的な回答をする児童が 89.9%と目標を大きく上回り達成することができた。ペア学習やグループ交流など、話し合いの場を積極的に設けることで、相手に伝わるように自分の考えを話すことができるようになった。また、自分の考えとの相違点も見つけたり、自由な意見を出したりする活動ができていた。

取組内容②

- 校内アンケートの結果により、肯定的な回答をする児童が 80.1%と目標を上回った。日々の細やかな指導や学級経営により児童が主体的に学びに向かう様子が見られた。
- 授業や課題等でデジタルドリルを活用し、反復学習により定着を図ってきた。学習が苦手な児童にも学習の意欲づけとなり、積極的に取り組む姿勢が見られた。

取組内容③

- 今年度、小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることが好きですか」目標 75%に対して、肯定的な回答をする児童の割合は 88.2%と目標を大きく上回った。
- 各学年、年間指導計画に沿って、体育科の授業づくりを行った。休み時間には、みんな遊びやなわとび週間等を行うことで、外遊びやなわとびをする児童が増えて、運動量の増加に繋がった。

次年度への改善点

取組内容①

- 自分の意見が伝えられない児童はまだ多い。積極的に話し合いが進んでいるペアには片寄りがあるため、ペアやグループ編成に工夫が必要である。また、児童には自分の考えをまとめる時間を確保し、教師には話し合いがスムーズに進むような発問の工夫が必要である。今後も話し合いのルールを決めて継続していく。更に、どの教科においても意見交流の機会を積極的に取り入れていくようとする。

取組内容②

- デジタルドリルを使用し、課題に取り組む機会は多くなってきてている。しかし、自ら進んで学習に取り組んでいると回答する児童は、高学年になるほど少なくなっているため、実態把握を行う必要がある。自分で目標を決めて取り組んだり、興味や関心の持てる課題を教師が紹介したりするなど、児童がより主体的に取り組むための手立てを考えることが大切である。

取組内容③

- 運動が苦手な児童も積極的に取り組みたいと思える活動内容を授業に取り入れたり、準備時間や学年合同体育等を考慮した時間割の設定をしたり工夫する。
- 外遊びが嫌いな児童も積極的に外で運動できるように、生活目標週間やなわとび週間のような取り組みを今後も継続、又は活動期間を増やしていく。

大阪市立御幣島小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標（小・中学校） ○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 【今年度 27.3%】 ○毎週1日以上、ゆとりの日を設定する。夏季・冬季休業期間中の学校閉庁日を3日以上設定する。 【今年度 3日以上設定】【昨年度 3日以上設定】 ○年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を昨年度より上回る。【今年度 90.5%】【昨年度 85.6%】	
学校園の年度目標 ○学習者用端末で、児童が「心の天気」「オンライン授業」「相談機能」「デジタルドリル」等の活用を併せて一日1回以上行うようにする。 【今年度 1回以上実施】【昨年度 1回以上実施】 ○教職員の資質向上をめざし、授業研究を含む各種校内研修を月平均2回以上行う。 【今年度月平均 2回以上実施】【昨年度月平均 2回以上実施】 ○教室の環境整備の目標として、児童の身長にあった使いやすい高さになるよう、年2回の調査を行い、適切な児童机・椅子を配備する。 【今年度年 2回実施】【昨年度年 2回実施】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ○児童用タブレット端末を学校生活や家庭生活に広く浸透させ、活用できるようにする。	
指標 ◇学習者用端末で、児童が「心の天気」「オンライン授業」「相談機能」「デジタルドリル」等の活用を行うようにする。 ◇年度末の校内調査の「日々の学校生活の中で、学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を83%以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○教職員が過ごし易い職場環境の充実に努め、資質向上を図れる研修の機会を保障する。	
指標 ◇毎週1日以上「ゆとりの日」を設定する。 ◇課業中の会議、研修等がない日を年平均35%以上にする。 ◇会議等の資料をSKIPで配信し、熟読の上、学年で決議が可能な項目については事前に話し合っておくことで、会議等の実施時間1時間以内を80%以上にする。 ◇教職員の資質向上をめざし、校内研修を月平均2回以上行う。	B
取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 ○生涯にわたり意欲をもって学習に取り組む児童を育成することをめざし、教室等の環境を整える。	
指標 ◇年2回の机・椅子調査を行い、児童の成長に合わせた適切な児童机・椅子を配備する。	B

年度目標の達成状況取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- 毎日、心の天気を入力するように声をかけたり、デジタルドリルを活用したりすることで、肯定的に回答している割合が約 86.5%となり、数値目標の 83%を達成することができた。
- SkyMenu cloud を活用したり、アプリを使った九九の学習をしたりしている。体育科や生活科で、写真や動画を撮って授業に活用する学年もあった。
- 児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にするという全市共通目標は、8 月を除いて達成できていない。

取組内容②

- 毎週 1 日以上のゆとりの日が設定されていた。
- 会議・研修等が無い日が月平均 59%であったので、教材研究・作成の時間がある程度確保でき、児童の対応にもゆとりが生まれた。
- 事前に資料を共有することで、会議等の実施時間 1 時間以内の数値が年平均 84%となり、数値目標の 80%を達成することができた。
- 教職員の資質向上を図るために、校内研修の充実と月 2 回以上の開催ができた。

取組内容③

- 年 2 回の机・イス調査を実施することができた。

次年度への改善点

取組内容①

- タブレットの持ち帰りや休み時間の使用方法等、学校全体でルールを設定する必要がある。
- 職員が、タブレット端末の効果的な活用方法について、より深く知る必要がある。

取組内容②

- 職員が事前に資料を確認する時間を多く取る為に、職員会議の資料の提出期限を早めに設定する必要がある。
- 教職員の資質向上のため、校内研修の内容を精査する必要がある。

取組内容③

- 使われていない設備(備え付けのテレビ)等の撤去、その他教室内の整理をする必要がある。
- 年 2 回以上の机・イスの調査を、引き続き実施していく。
- サイズによっては予備の机・イスの数が足りないので、計画的な補充を進める必要がある。
- イスのキャップや、簡単な修繕をどのように行うかを検討する必要がある。